

僕は魔女さまに溺愛されている。





僕は魔女さまに溺愛されている。

●魔女さま●

約千年前に魔王討伐を果たした勇者パーティに参加していた
こともあるという伝説の中に埋もれた魔女。
人の域を超えた魔力を有するが故に、不老となっている。

あまりに強すぎる魔力の弊害として、
発する「言葉」の全てが呪文となり、本人の意図しないところで
魔法が発動してしまうため、
敢えて喋らないようにしている。
「あ」とか「う」とか、意味を成さない声であれば大丈夫。

旅を終えた後は、「言葉」による魔法が他者に被害を及ぼす
可能性を考え、山奥で一人でひっそりと暮らすように。
とはいえ、たびたび人里に降りて物資を調達したり、
散歩と称して世界中をふらっと回ってみたい、
魔物の討伐をしたりと結構自由に行動している。

そういった特性もあり、恋愛経験は千年間まったく無し。
本人は鈍感なところがあるため気にしていないが、
表舞台で勇者たちと活動していた頃、
呪文は唱えられるのにまったく会話しようとせず、
さりとして陰気なわけでもなくいつもニコニコしているのを
仲間たちから若干気味悪がられており、
距離を取られていたせいで、男女関係どころか
人間関係そのものに疎くなってしまっている。

でも性的なことには興味津々で、
千年間ずっと右手が友達状態。
ひとりえっちだいすき。



●弟子くん(♂)●

ある日、住んでいた村が魔物の襲撃に遭い、
絶体絶命の状況で魔女さまに救われた男の子。

村の住人は両親を含め、自分以外全員亡くなってしまったため
魔女さまに拾われて、弟子として生活を共にすることになった。

魔女さまの家に男の子用の服があるはずもなく、
とりあえず魔女さまのお古の服を着せてみたら思いのほか
似合いすぎていて魔女さま大歓喜。
魔女さまが喜んでくれるならと、そのまま女の子用の服を着ている。

基本的に魔女さまとは筆談でやりとりをしている。
魔女さま曰く、魔法使いとしてかなりの素養を秘めているとか。
魔女さまのような強い魔法使いになって、
自分が救われたように、困っている人を助けられるようになりたい、
というのが目標。

お年頃の男の子であるため、
距離感のバグっている魔女さまからのスキンシップが最近の悩み。
溺愛されていることは嬉しく思いつつも、
女の子の格好をしていることもあり、自分は一体、魔女さまから
どう思われているのだろう……と日々もやもやしている。

ある日、突然
本当に何の前触れもなく
魔物に村が襲われ—
みんな、次々に、魔物に、
殺されて—

「ああ、次は僕の番
なんだ」って覚悟した
そんな時—

銀の髪に紅い瞳の
魔女さまが、
僕の前に立っていた

強大な魔法で、一瞬で魔物たちを
事もなげに消し飛ばして、いく
魔女さまの横顔から、
僕は目を離すことができなかった

——魔女さまと
出会ったあの日から
一年が過ぎた

魔物の襲撃で身寄りを
失った僕は魔女さまに
拾われ、彼女の弟子に
なった

見てください
魔女さまっ

!!
昨日より綺麗な形の
魔力玉ができましたっ

まだ小さな魔力玉しか
作れないのに、魔女さまは
我が事のように喜んで
くれる

ほび
ほび
そんな大した事じゃ
ないですからっ

……褒めてくれるのは
嬉しいけど、すぐに
抱きついてくるので……
ちよつと困る

ま、魔女さま……

よくできましたー♡

魔女さまは遥か昔、勇者さま達と魔王討伐の旅をじたことがあるらしい

勇者さまの伝説が千年以上前の話なので、魔女さまの年齢は……そういうことなのかな？

あまりに強すぎる魔力が肉体を上回ったことで不老の領域に達しているそうで……

あと……魔女さまは喋らない。喋れないわけではなく、魔力が強すぎて「言葉」の全てが魔法になり、現界に影響を及ぼしてしまうために自戒しているのだとか

なので人との関わりを断ち、山奥でひっそりと一人で生活していたみたい

——そう思うと、「魔女」の弟子だから「男」の僕に女の子の格好をさせてみたんだとか

僕のことをやたらと甘やかしたりべたべた抱きついたりだとか……長年、浮世離れと人恋しさをこじらせた結果なのかなと思うと納得できちゃったり……

あら……

ある日
魔女さまの部屋を
訪ねたとき――

魔女さま、魔法薬の素材が
もう残り少なくなってきた
みたいなんですけど……

次に行商人の方が
近くの村に来るのって
いつ頃――

ペ
や
!?

ド
キッ!

魔女さまが……その……しているの
を見てしまっただけから、
魔女さまと僕の関係は「師弟」から
大きく変わってしまった

ごめんなさい
ごめんなさいっ!

僕、何も見てない
ですからっ!



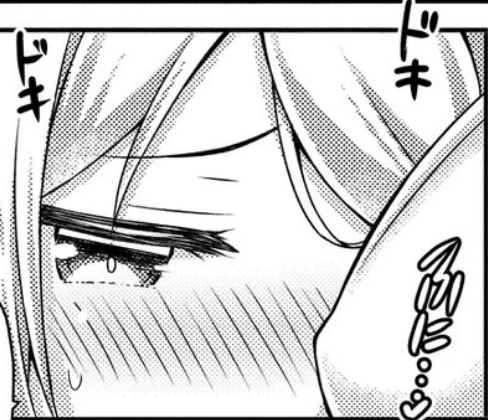
それまで、
頭を撫でて褒めて
くれるくらい
だったのが

事あるごとにこうやって
ぎゅって抱きしめてお胸を
押し付けてくるように
なったし、
それどころか――

そうすると僕が喜ぶと
思ったのか、魔女さま的には
ご褒美のつもりなのか、
積極的に僕にえっちなことを
してくるように……

僕も、別にそれは嫌じゃ
ないんだけど……でも、
なんだかもどかしくて……

魔女さま……あの……僕
まだ今日の課題が
残って……



僕の……を擦る魔女さまの
手つきは、いつも頭を
撫でてくれるときと
同じ優しい触り方で

魔女さま！
だめっ！

まるで赤ちゃんをあやす
みたいな——ふわふわして
次第に何も
考えられなくなつて……

いいよ♡

ぴゅーっして♡

おっ！



待...っ
魔女さま

汚いですから
...っ!

んあ

は

は

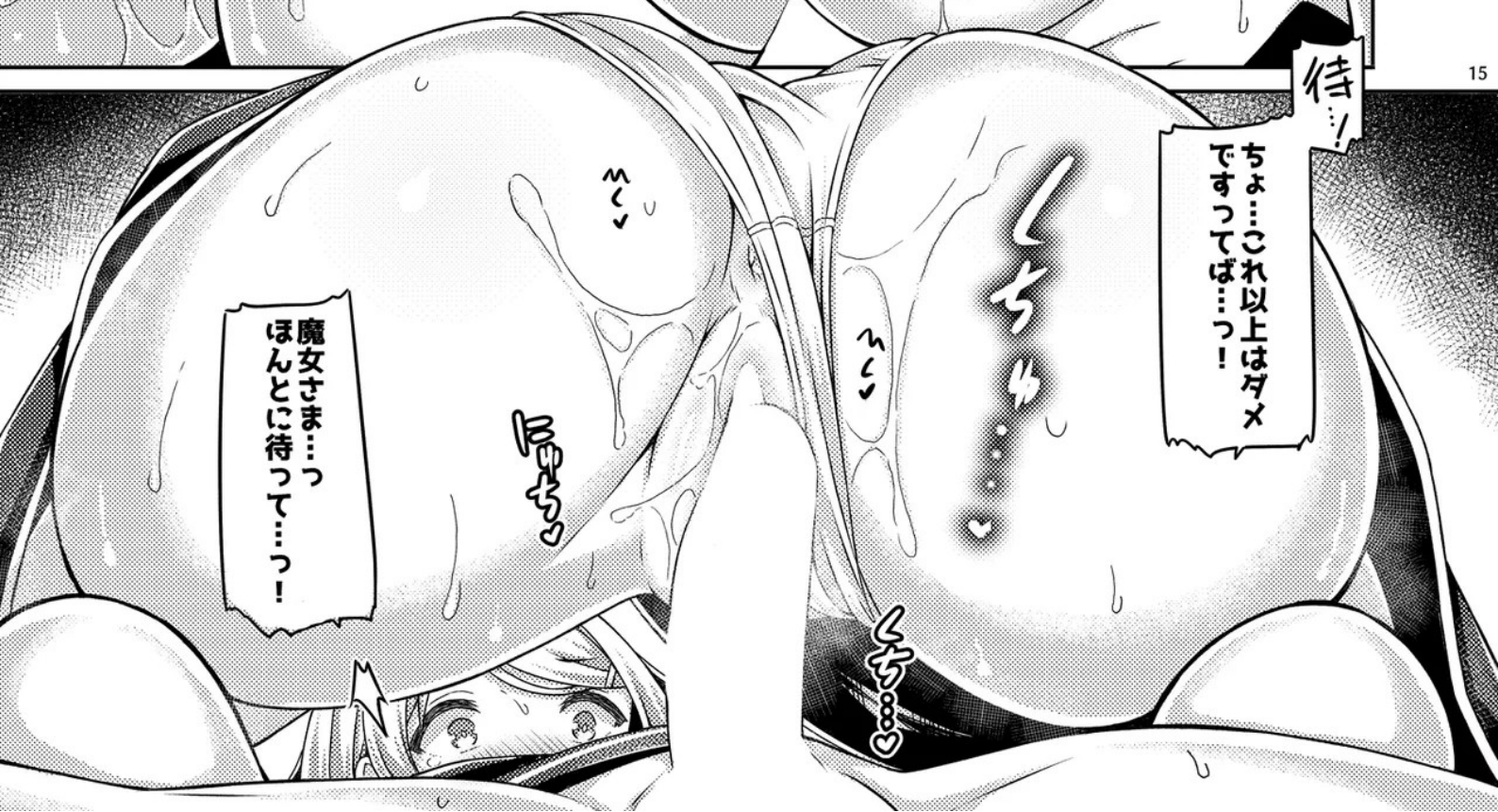
ぎん

ぎん

紙め取られてる...
僕が出したものの全部...
魔女さまの舌で

昨日まではしなかったことを
今日は平然と...
魔女さまがしてくれることは
日に日にどんどん過激に
なっている











にゃん...にゃん

魔女さまがひとりで見ているのを見てしまっただけ

魔女さま... はげし...

魔女さまが僕にえっちなことをしてくるようになって



もう今すぐ出ちやいそう
なのに、ぎゅっと根本を
握りしめられてるようで
ずっとギリギリの感覚が
続いてる

魔女さまの魔法だ——
自分が満足するまで、
僕が果ててあつさり
終わってしまわないように





魔女さまの「言葉」の
魔法が効いたのか、
単純に安心したのか

ん…♡

魔女…さま…

僕はそのまま
魔女さまの胸に抱かれて
深い眠りに落ちた

●キャラデザとか●

ウスイ=ホン用にファンタジー系のデザインを考えると、半脱ぎえっちさせやすさを重視しつつも、こうした方がデザイン的には映える、けど半脱ぎ……ぐぬぬ、みたいな葛藤があります。



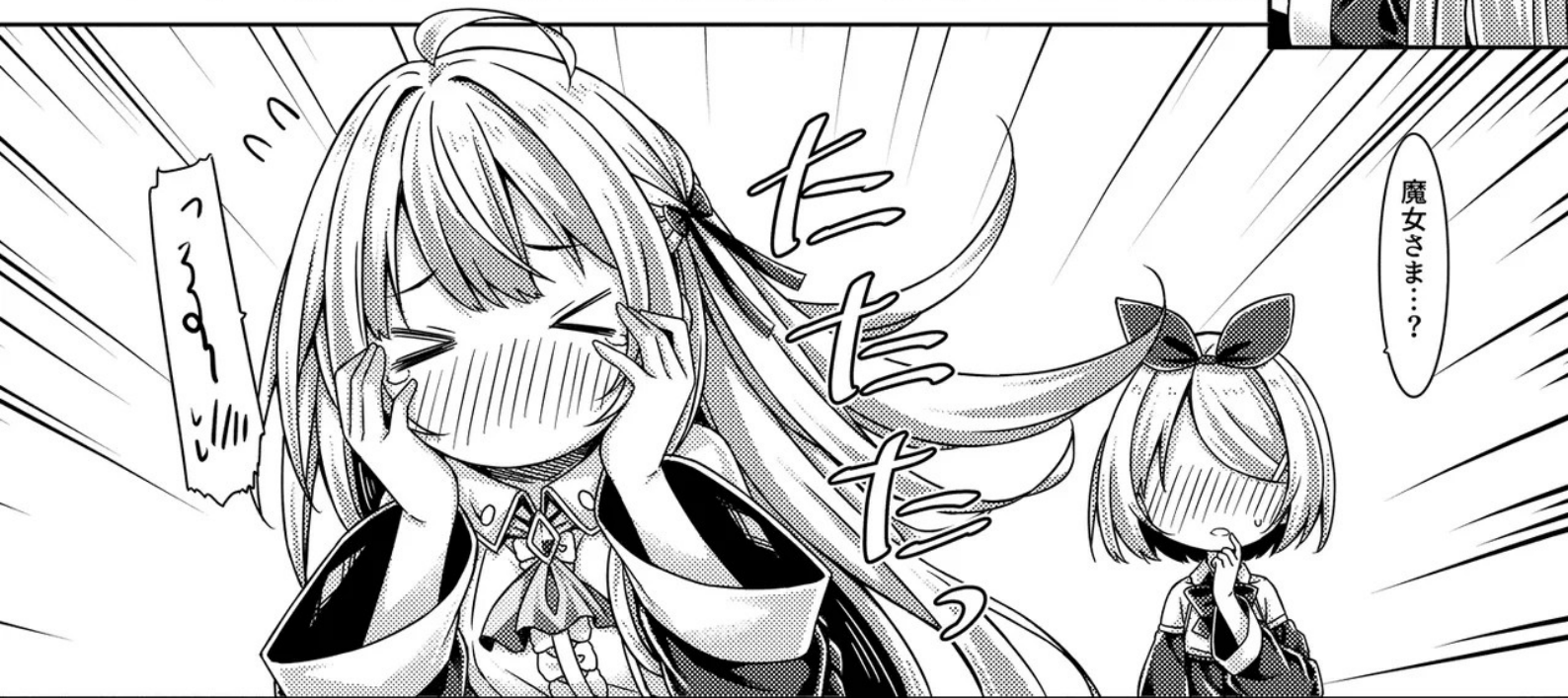
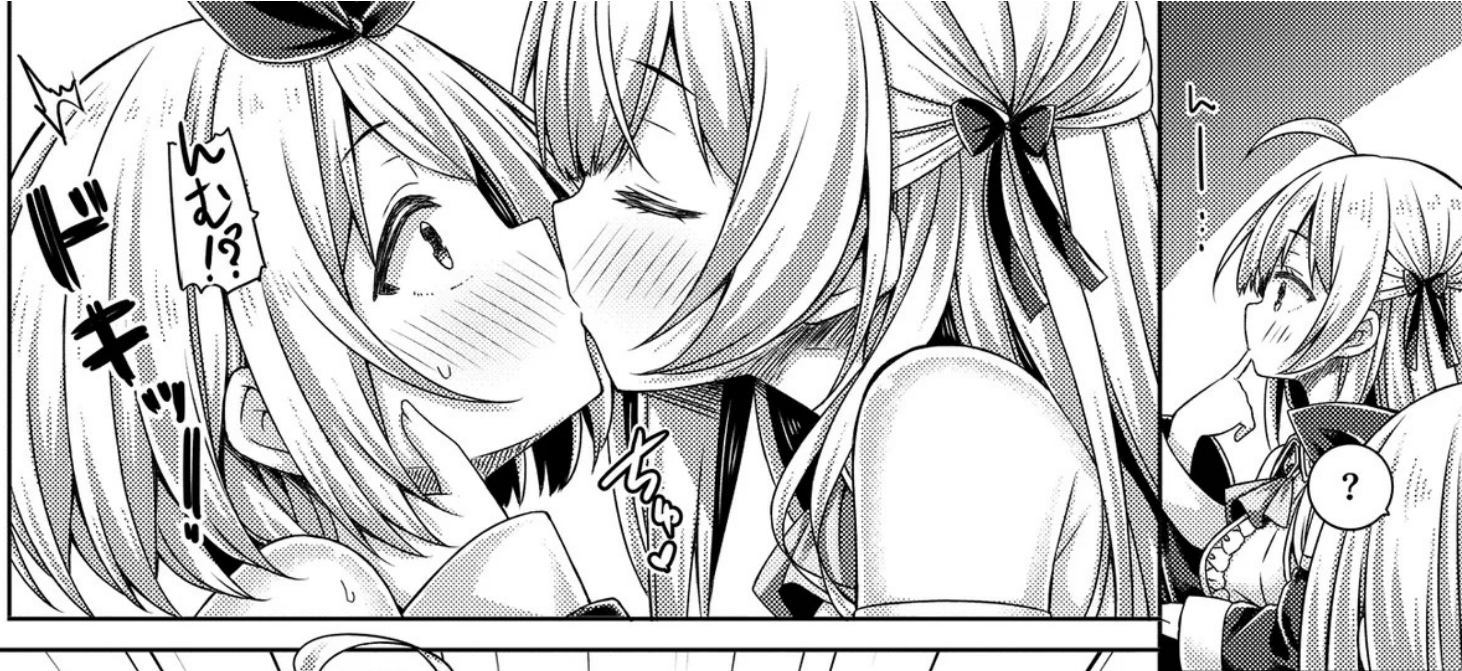
魔女帽子って、あればそれっぽくなるけど漫画のコマに収めるにはあまりにもデカすぎるのが難点だとわんわんおもう。



なんかつよそうな感じで。
魔法ぶわーってやってるの描くのたのしい(めざめ)

アクキーとかにしたい。

斜めからの見た目とマント外したときの背中側の資料用に。



ますます魔女さまのことが
分からなくなっただけど、
とりあえず魔法の勉強を頑張っ
て面と向かって魔女さまとお話
できるようにしよう、と思った

…なんでコレは
恥ずかしがるのさ…

僕は魔女さまに溺愛されている。

2025年8月17日 発行
印刷会社：PICO様
発行：没後
著者：RYO

URL：http://www.vesta.dti.ne.jp/~mayaul/
MAIL：ryo5120@gmail.com

本書の複製・複写・インターネットへのアップロード等を固く禁じます
乱丁・落丁本はお手数ですが上記の連絡先までご連絡下さい



僕は魔女さまに溺愛されている。

"Pantsu" FanBook EX-33
2025 Summer
BOTUGO R-Side
RYO Presents
FOR ADULT ONLY